



学校だより 第6号

菩

提

樹

平成27年10月

高岡市立東五位小学校



郷土の先達 五十嵐篤好翁の精神を受け継ぐ

校長 吉田 茂

東五位小学校には、一つの立派なお墓があります。その訳は、ご存じの通り、江戸時代に代々加賀藩の十村役を担ってきた五十嵐家跡に学校が建てられたからです。学校のシンボルである菩提樹は、およそ220年前の江戸時代から五十嵐家を見守り、そして、創校117年目を迎える今も、毎朝その傍を通過して登校する子供たちを温かく見守り続けています。

五十嵐家の中でも第9代篤好さんは、次代を担う子供たちに是非とも語り継ぎたい人物です。弱冠19歳にして十村役を引き受けただけでなく、射水の数学者、石黒信由に師事して和算測量を学んだことを生かし、父：孫作の悲願であった大沢野の舟倉野用水の開削に奮闘します。その後、貧困に苦しむ農民への様々な救済措置に対し、加賀藩から言われのない罪に問われ、3度も入牢や謹慎処分を受けます。その間、父や妻の死という悲嘆をも乗り越えて不死鳥のように蘇り、益々意気盛んに国学や和歌、書道、言霊等の新分野をも開拓するという、正に越中第一等の人物と言っても過言ではありません。

『ますらおは かくぞ世の常 君のため 世のためと思ふ 心やまめや』

無実の罪で罰せられた際に詠んだ歌です。逆境にも全くひるむことなく、世のため人のために尽くそうとする自分の心は、なんら変わることがないと強烈に訴えています。

このような篤好さんの生涯から学ぶことは数多く、小学校でも総合的な学習の時間や社会科の学習、時に学習発表会等で、子供たちは毎年何らかの形で五十嵐篤好さんに対する“学び”を継続しています。

また、本校の特色である、伝統的な文化に親しみ感性を育む俳句学習や万葉かるたの取組、地下道清掃ボランティア、心身を鍛える朝マラソン活動等の教育活動にも篤好さんの精神が受け継がれていると私は考えます。自らの追究や活動の中で、篤好さんが他者の幸せに心を砕き日々信念をもって力強く生きた姿を見つめ、是非遠くの道標とし、たくましく生き抜く人に成長することを願っています。



※大野忠雄さんより、菩提樹の木に命を吹き込まれた作品を寄贈していただきました。

